



## CANDy CANYon

渋谷川の水辺・建築空間の開放

西村 秀勇 (にしむら ひでゆう)

日本大学 理工学部 海洋建築工学科



**[講評]** 現在、都市の河川は治水機能だけの单なるコンクリートの水路となり、建物が河川に背を向けて建ち並ぶ。この作品は、都市の「裏」と化した河川を人の為の魅力ある都市空間へと水辺環境を再構築する提案である。人が歩けなかった单なるインフラとしての河川の親水性を高めるだけでなく、川を挟んだ建築を、渓谷の地層の変化や自然形態をモチーフにする事により有機的な繋がりを生み出している。また、今まで利用しなかった「都

川沿いのリニアな土地に連立するオフィスビル。都心ではよく見られる景色である。都市のインフラと化した河川には、自然を感じることが出来なくなってしまっており、暗渠化され今までに消えさうとする河川もある。かつてのような川の再生は難しいが、そこに川があったことを継承することは出来るのではないか。

そこで、本計画では、個々に使用されている川沿いのビルを複合化することで、建築空間を有効に利用し、水辺、都市に対し解放的な建築とする。そして、都市の中での水辺環境のあり方を提案する。

建築の設計一つでそれらの環境は変わり、またそれらを生かすことで建築空間は生きると考える。



市の隙間」屋外空間をアトリウム的な内部空間と考え、そこに視線の「抜け」を生み出す事により歩行者の流れも変化して繋げ、周辺環境を一体化させて街を活性化させる。今までに現在の都市が必要とする魅力的な提案となっている。ただ、スタディー模型や考察もしっかりしているのだが、人が集う憩いの水辺空間のデザインをもっと具体的に提案し、駅周辺との関わりなどもプランしていたら更に魅力を増したと思う。 (審査員:石毛 満)